

○ 委員長報告

2月定例会本会議で報告された文教警察委員長報告は、以下のとおりです。

平成29年2月定例会

文教警察委員長報告

報告いたします。

当委員会に付託されました議案の審査結果は、お手元に配付されております委員会審査報告書のとおりでありまして、いずれも原案のとおり可決決定されました。

以下、審査の過程において論議された主な事項について、その概要を申し上げます。

まず第1点は、えひめジョブチャレンジU-15事業についてであります。

このことについて一部の委員から、えひめジョブチャレンジU-15事業の具体的内容はどうかとただしたのであります。

これに対し理事者から、県立中等教育学校3校をモデル校に指定し、「スゴ技」データベース掲載企業や「えひめ愛顔の農林水産人」等の職場で、5日間の体験学習を実施することとしており、実施に当たっては、受け入れ企業等の掘り起こしを行うとともに、企業や保護者、地域が一体となった職場体験学習を支援する予定である。

また、一層充実した職場体験学習となるよう、生徒にアドバイス等を行う企業関係者等の指導ボランティアの配置も検討している。

さらに、生徒が職場体験学習で学んだことや企業の特徴などを紹介する職場体験レポートを作成し、県内全公立中学校に配布するほか、各校からの代表生徒を集めた体験発表会を実施し、成果の普及を図っていききたい旨の答弁がありました。

第2点は、教員の英語力・指導力向上等についてであります。

このことについて一部の委員から、次期学習指導要領案が公表され、小・中学校の英語教育のさらなる充実が示されているが、教員の英語力や指導力をどのように高めていくのかとただしたのであります。

これに対し理事者から、さらなる英語力の向上を図るため、来年度、新たに英語コミュニケーション能力ボトムアップ事業を実施する予定であり、次期学習指導要領が全面実施される平成32年度までの3年間で、全小学校の英語教育のリーダーとなる教員と中学校の全ての英語教員に対し、指導力の向上を図る研修を実施するほか、民間英会話教室の講師による研修講座を開設し、中学校英語教員100名に年間44時間の講座を受講させるなどの取り組みを行うこ

ととしている。

また、小学校では、不安に感じる教員もいると思われることから、国の研修を受けた者を指導者とした研修を県内各地で行い、小学校教員の指導力向上を図りたい。

なお、小学校の教員採用試験において、中学、高校の英語の免許を取得している者などに加点し、英語力の高い教員の確保にも努めている旨の答弁がありました。

第3点は、ストップ特殊詐欺高齢者対策事業についてであります。

このことについて一部の委員から、特殊詐欺被害を防止するための新たな取り組み事業であるストップ特殊詐欺高齢者対策事業の概要と効果はどうかとただしたのであります。

これに対し理事者から、本事業は、特殊詐欺の被害者の約75%を占める高齢者を重点とした被害防止対策と金融機関等と連携した水際対策のさらなる強化のため、新たにコールセンター委託事業と無人ATM対策事業を講じることにしている。

コールセンター委託事業は、被害に遭う可能性の高い高齢者等に対して、受託事業者のオペレーターが直接電話をかけて注意喚起を行うものである。

また、無人ATM対策事業は、スーパー等のATMコーナーに、センサー内蔵の等身大警察官像、通称「ボイスポリス」を配置し、利用者を感知すれば自動的に注意喚起の音声を再生するものである。

県警としては、これまでの対策とあわせた両事業の効果的な運用により、特殊詐欺から県民を守っていききたい旨の答弁がありました。

このほか、

- ・ えひめ丸の船員確保
- ・ 教職員のメンタルヘルス対策
- ・ 警察施設の耐震化
- ・ 運転免許自主返納促進のガイドブック

などについても、論議があったことを付言いたします。

以上で報告を終わります。